

目次

1.インストール

- 1-1 動作環境
- 1-2 データベースのインストール
- 1-3 Java JDK のダウンロード
- 1-4 Java JDK のインストール
- 1-5 Adempiere のダウンロード
- 1-6 Adempiere のインストール
- 1-7 データのインポート
- 1-8 Adempiere サーバーの起動
- 1-9 Adempiere クライアントのインストール

1.インストール

1-1 動作環境

Adempiere ERP は Windows と Linux で動作させることができます。データベースシステムは、Oracle または、PostgreSQL が使用可能です。このマニュアルでは Windows Xp Professional と Oracle XE でのインストール方法を解説します。

インストールに必要な環境

OS:Windows XP Professional

CPU:2GHz 以上

メモリ:1G バイト以上(2G バイト以上を推奨)

1-2 データベースのインストール

PostgreSQL を使う場合は、同じフォルダにある manual_postgres_install.odt、オラクル XE を使う場合は、同じフォルダにある manual_ora_install.odt を参照してください。

1-3 Java JDK のダウンロード

Adempiere をインストールするには Java の実行環境(JRE)だけではなく Java の開発環境(JDK)が必要です。

インストールされていない場合は、下記 URL からダウンロードしてください。

<http://java.sun.com/javase/ja/6/download.html>

2009 年 12 月 26 日現在、ダウンロードページに

- JDK 6 Update 17 with Java EE
- JDK 6 Update 17 with JavaFX SDK
- JDK 6 Update 17 with NetBeans 6.8
- JDK 6 Update 17
- JRE 6 Update 17

などのダウンロードリンクがありますが、NetBeans や Java EE は不要なので、JDK 6 Update 17 をダウンロードしてください。

Adempiere のインストールには、Java の実行環境(JRE)ではなく JDK が必要です。

1-4 Java JDK のインストール

JDK のファイルをダウンロードしたら、実行ファイルをクリックしてください。
インストーラーが起動するので指示に従ってインストールしてください。

インストールが完了したら、JDK のパス通します。
コマンドプロンプトに"jarsigner"と入力してください。
(コマンドプロンプトは、デスクトップ画面左下にあるウィンドウズのスタートメニューから、
「すべてのプログラム」>「アクセサリ」>「コマンドプロンプト」で実行します)
"jarsigner"と入力したときに、使い方のメッセージが表示された場合は、
すでに JDK のパスが通っています。
「'jarsigner' は、内部コマンドまたは外部コマンド、
操作可能なプログラムまたはバッチ ファイルとして認識されていません。」
と表示された場合は、JDK のパスが通っていないので、パスの設定をします。
「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックして「プロパティ」を選ぶと、
「システムのプロパティ」が表示されます。
「詳細設定」タブをクリックして、ウィンドウの下の方にある「環境変数」ボタンをクリックしてください。
「システム環境変数」の「Path」を選択して、編集ボタンで変数値に
JDK の bin ディレクトリをパスに追加してください。

例：
;C:\Program Files\Java\jdk1.6.0_17\bin
セミコロン(;)は区切り文字です。

1-5 Adempiere のダウンロード

このマニュアルが入ってる zip ファイルに AdempiereXXX.zip (XXX はバージョン番号)があります。
(Adempiere のプログラム本体は、<http://sourceforge.net/projects/adempiere/> から入手することもできます)

1-6 Adempiere のインストール


Adempiere の zip ファイルを解凍します。
解凍して出来たフォルダを任意の場所に移動させてください。
このマニュアルでは C ドライブの直下 (C:\Adempiere) に移動させたという前提で説明します。別の場所に置いた場合はファイルパスを読み替えてください。

C:\Adempiere\RUN_setup.bat
をクリックしてください。
Adempiere の設定プログラムが起動します。


アデンプイエーレ サーバー 設定

ファイル ヘルプ

Java


Javaのホーム ☐  Java VM

Adempiere

アデンプイエーレのホーム ☐  KeyStore Password ☐

アプリケーション・サーバ

アプリケーション・サーバ ☐ Server Type ☐

Deployment ☐  JNP ポート ☐

ウェブポート ☐ SSL ☐

データベース・サーバ名

データベース・サーバ名 ☐ データベース ☐

データベース名 (SID) ☐ TNS ☐

データベース ポート システムパスワード ☐

データベースユーザ名 データベースパスワード ☐

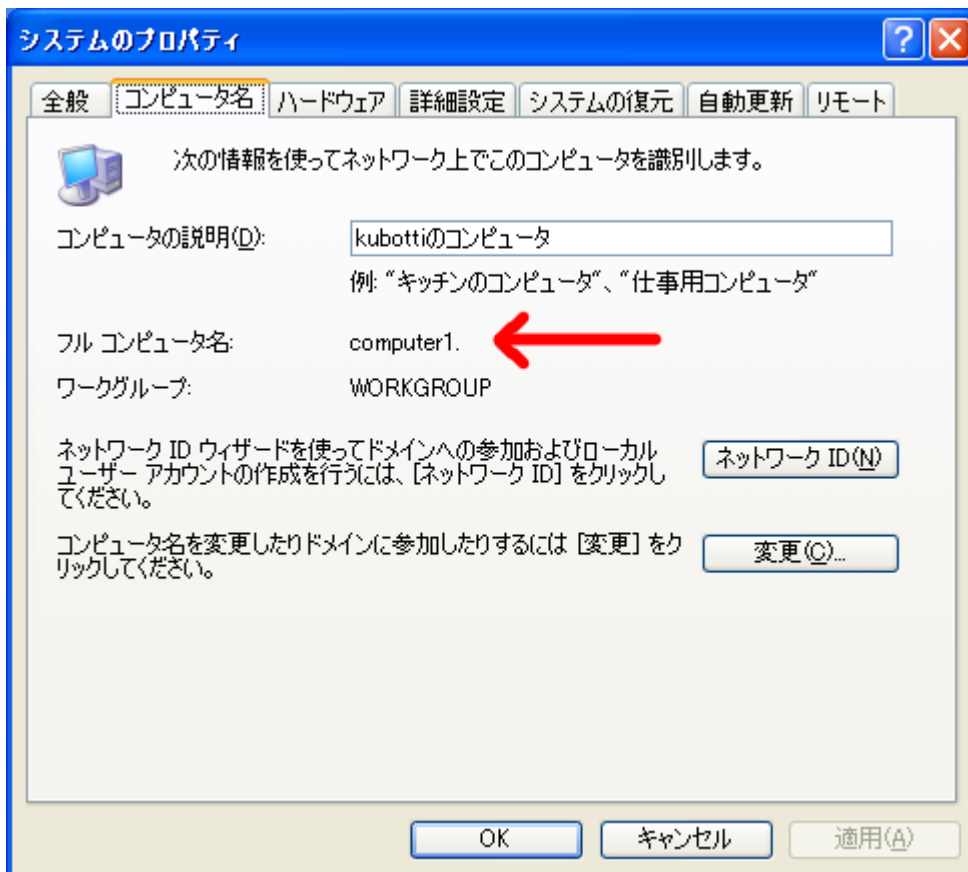
メール・サーバ

メール・サーバ ☐ メール ☐

メールユーザ メールパスワード ☐

テスト

- ・「Java のホーム」ではインストールした JDK のディレクトリを指定してください。
- ・「Java VM」では、sun を指定してください。
- ・「アデンプイエーレのホーム」では、adempiere の本体を置いたディレクトリを指定してください。
(このマニュアルでは C:\Adempiere に置いています)
- ・「KeyStore Password」では、任意のパスワードを設定して忘れないように、テキストファイルなどに保存したりメモをしたりして下さい。
- ・「アプリケーション・サーバ」では、adempiere インストールする PC のホスト名を指定します。
デスクトップのマイコンピュータを右クリックして表示される、「システムのプロパティ」ウィンドウの「コンピュータ名」タブにある、「フルコンピュータ名」がホスト名です。文字の最後にあるドット(.)は付けなくても問題ありません。



- Server Type では jboss を選択してください。
- JNP ポート、ウェブポート、SSL はデフォルトのままそれぞれ、1099、80、443 のままにしてください。
- データベース・サーバ名は「アプリケーション・サーバ」で設定したときと同じようにホスト名を入力してください。

データベースにオラクル XE を使う場合

- データベースは oracleXE を選択してください。
- データベース名(SID)は「xe」と入力してください。
- TNS は xe を選択してください。
- データベース ポートは、oracleXE のデフォルトの 1521 が設定されます。
- システムパスワードは、オラクル XE をインストールしたときに設定したパスワードを入力してください。
- データベースユーザ名は adempiere と入力してください。
- データベースパスワードは、任意のパスワードを入力してください。


データベースユーザ名とデータベースパスワードは、Adempiere がデータベースに接続する時に使うユーザー名とパスワードです。

データベースに PostgreSQL を使う場合


アデンプiere サーバー 設定

ファイル ヘルプ

Java


Javaのホーム ☒  Java VM

Adempiere

アデンプiereのホーム ☒  KeyStore Password ☒

アプリケーション・サーバ

アプリケーション・サーバ ☒ Server Type

Deployment ☒  JNP ポート ☒

ウェブポート ☒ SSL ☒

データベース・サーバ名

データベース・サーバ名 ☒ データベース

データベース名 (SID) ☐ TNS

データベース ポート システムパスワード ☒

データベースユーザ名 データベースパスワード ☒

メール・サーバ

メール・サーバ ☐ メール

メールユーザ メールパスワード ☐

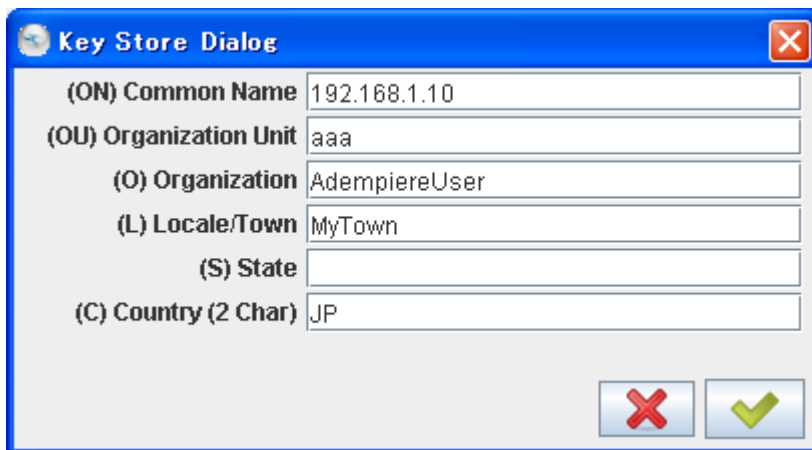
Ok

- ・データベースは **postgresql** を選択してください。
 - ・データベース名 (SID) は「**adempiere**」と入力してください。
 - ・データベース ポートは、**postgreSQL** のデフォルトの **5432** が設定されます。
 - ・システムパスワードは、**postgreSQL** をインストールしたときに設定したパスワードを入力してください。
 - ・データベースユーザ名は **adempiere** と入力してください。
 - ・データベースパスワードは、任意のパスワードを入力してください。
- データベースユーザ名とデータベースパスワードは、**Adempiere** がデータベースに接続する時に使うユーザー名とパスワードです。

- ・メールサーバーは「アプリケーション・サーバ」で設定したときと同じようにホスト名を入力してください。
- ・メール、メールユーザ、メールパスワードは、このマニュアルでは使用しないので、test@test.test、test、test と入力してください。

入力が終わったら左下にある「テスト」ボタンを押してください。

「テスト」ボタンを押した後に表示される「Key Store Dialog」の内容を変更せずに右下の OK ボタンを押してください。



The image shows a 'Key Store Dialog' window with a blue title bar and a close button (X) in the top right corner. The window contains several input fields with labels on the left and values in the text boxes:

Label	Value
(ON) Common Name	192.168.1.10
(OU) Organization Unit	aaa
(O) Organization	AdempiereUser
(L) Locale/Town	MyTown
(S) State	
(C) Country (2 Char)	JP

At the bottom right of the dialog, there are two buttons: a red 'X' button and a green checkmark button.

テストでエラーが無ければ、右下にある「保存」ボタンがアクティブになるので「保存」ボタンを押してください。

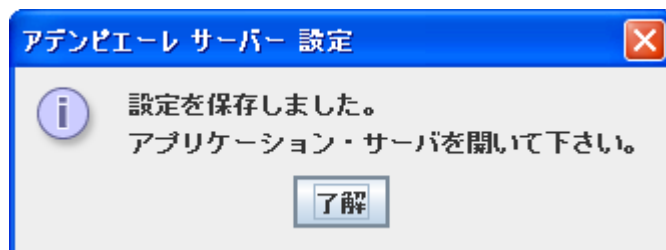
Adempiere のライセンス(GPL)に同意するかどうかのウィンドウが表示されます。

同意出来る場合は、右下の「はい」をクリックしてください。

設定が保存されてビルドが開始されます。

ウェブポート(80)、SSL ポート(443)などが他のアプリケーションで使用されているとエラーメッセージが表示されます。

ポートを使用しているアプリケーションを終了してから、セットアップを実行し直してください。



```
C:\ Set Windows Environment
setupDeploy:
  [echo] AppsDeployment= C:\Adempiere\jboss\server\adempiere\deploy

setup:

BUILD SUCCESSFUL
Total time: 1 minute 27 seconds

*** 2007-10-01 16:22:12.859 Adempiere Log (CLogConsole) ***
ErrorLevel = 0
=====
Setup Client Environment
=====
SET ADEMPIERE_HOME=C:\Adempiere
SET JAVA_HOME=C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_09
Path is OK = C:\oracle\app\oracle\product\10.2.0\server\bin;C:\Program Files\Java\jdk1.5.0_09\bin;%SystemRoot%\system32;%SystemRoot%;%SystemRoot%\System32\Wbem;C:\Program Files\Java\jdk1.6.0\bin;C:\php\dlls;C:\Program Files\YTC\I-CATS\system\EXE\
Created Shortcut Adempiere.lnk
Created Shortcut Adempiere Web Site.url
Done
.
For problems, check log file in base directory
```

1-7 データのインポート

PostgreSQL または Oracle XE にデータのインポートを行います。

C:\Adempiere\utils\RUN_ImportAdempiere.bat

をクリックして実行してください。



コマンドプロンプトが開いて、バッチファイルが実行されます。

※Adempiere 342s では、バージョン 8.3 以降の PostgreSQL で RUN_ImportAdempiere.bat を実行すると正しくデータがインポートされません。Adempiere 342s で PostgreSQL 8.3 以降の

PostgreSQL にデータをインポートする場合は、

C:\Adempiere\utils\postgresql\ImportAdempiere.bat

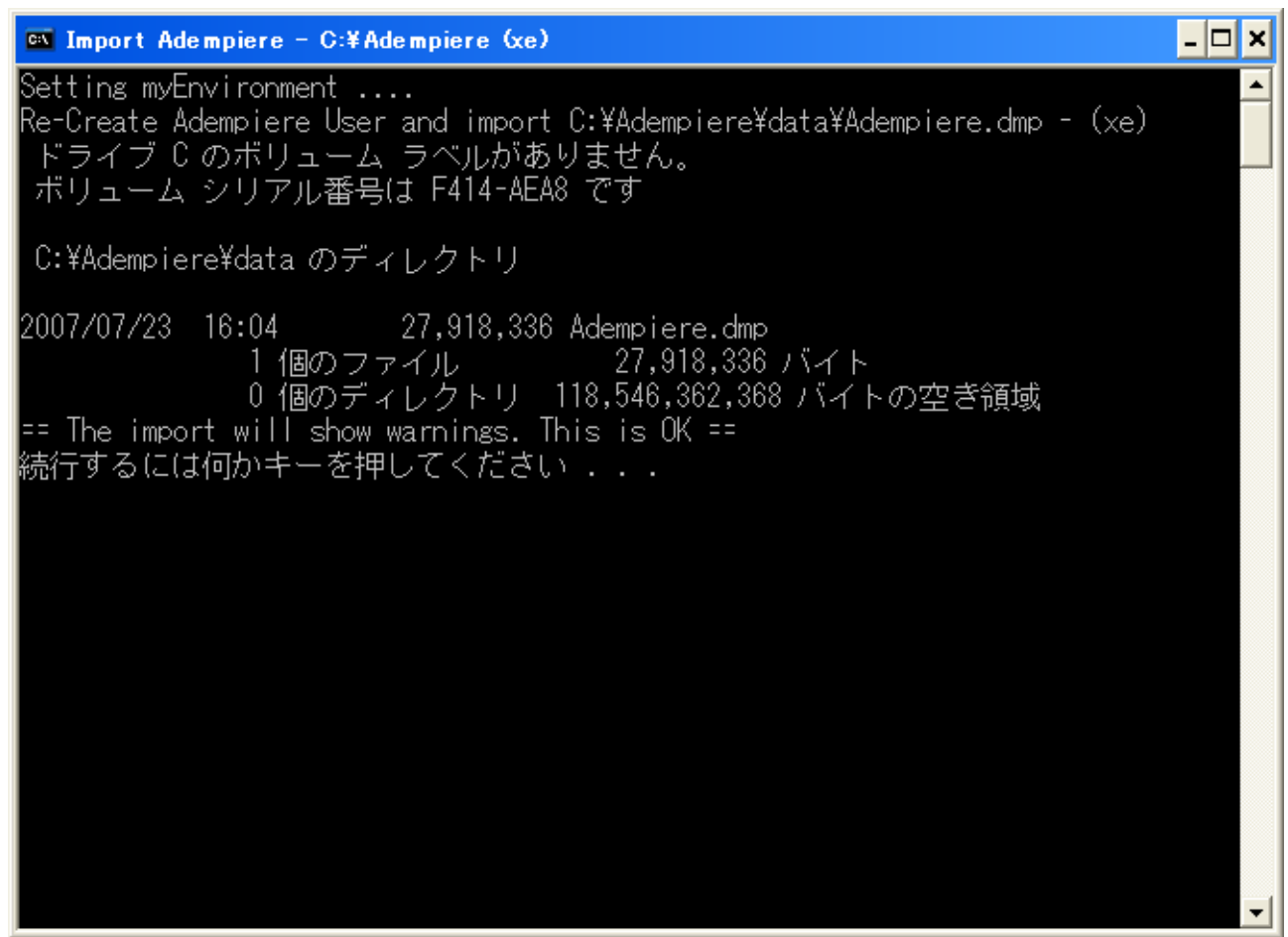
の 25 行目にある

@createdb %ADEMPIERE_DB_NAME% -E UNICODE -O %2 -U %2

を

@createdb -E UNICODE -O %2 -U %2 %ADEMPIERE_DB_NAME%

に修正してください。



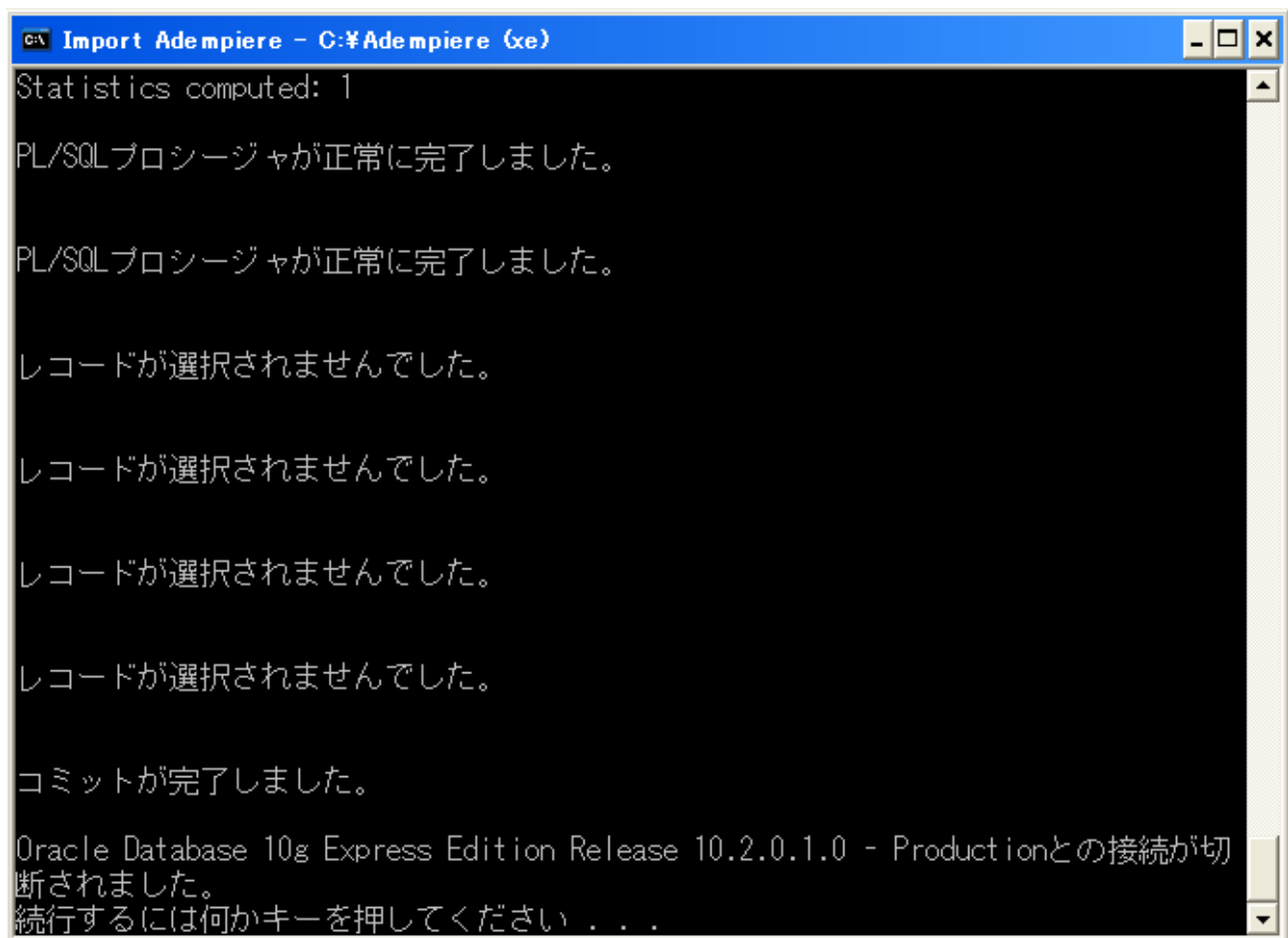
```
C:\¥ Import Adempiere - C:\¥Adempiere (xe)
Setting myEnvironment ....
Re-Create Adempiere User and import C:\¥Adempiere¥data¥Adempiere.dmp - (xe)
ドライブ C のボリューム ラベルがありません。
ボリューム シリアル番号は F414-AEA8 です

C:\¥Adempiere¥data のディレクトリ

2007/07/23 16:04      27,918,336 Adempiere.dmp
          1 個のファイル      27,918,336 バイト
          0 個のディレクトリ 118,546,362,368 バイトの空き領域
== The import will show warnings. This is OK ==
続行するには何かキーを押してください . . .
```

Oracle XE の場合は、処理中にエラーメッセージが表示されますが、バッチ処理の最後にエラーを解消する処理があるので途中で表示されるエラーは問題ありません。


```
Import Adempiere - C:\Adempiere (xe)
IMP-00041: 警告: オブジェクト作成の際、コンパイル・エラーが発生しました。
"CREATE FORCE VIEW "ADEMPIERE"."RV_C_INVOICE_PRODUCTQTR"
" ("AD_CLIENT_ID","AD_ORG_ID","M_PRODUCT_ID","DATEINVOICED","LINENETAMT",""
" "LINELISTAMT","LINELIMITAMT","LINEDISCOUNTAMT","LINEDISCOUNT","LINEOVERLIMIT"
" "AMT","LINEOVERLIMIT","QTYINVOICED","ISSOTRX") AS "
"SELECT il.AD_Client_ID, il.AD_Org_ID, il.M_Product_ID,"
" firstOf(il.DateInvoiced, 'Q') AS DateInvoiced,"
" SUM(il.LineNetAmt) AS LineNetAmt,"
" SUM(il.LineListAmt) AS LineListAmt,"
" SUM(il.LineLimitAmt) AS LineLimitAmt,"
" SUM(il.LineDiscountAmt) AS LineDiscountAmt,"
" CASE WHEN SUM(LineListAmt)=0 THEN 0 ELSE"
" ROUND((SUM(LineListAmt)-SUM(LineNetAmt))/SUM(LineListAmt)*100,2) END A
S "
"LineDiscount,"
" SUM(LineOverLimitAmt) AS LineOverLimitAmt,"
" CASE WHEN SUM(LineNetAmt)=0 THEN 0 ELSE"
" 100-ROUND((SUM(LineNetAmt)-SUM(LineOverLimitAmt))/SUM(LineNetAmt)*100,
2)"
" END AS LineOverLimit,"
" SUM(QtyInvoiced) AS QtyInvoiced, IsSOTrx"
"FROM RV_C_InvoiceLine il"
"GROUP BY il.AD_Client_ID, il.AD_Org_ID, il.M_Product_ID,"
" firstOf(il.DateInvoiced, 'Q'), IsSOTrx"
制約の有効化について...
```



```
Import Adempiere - C:\Adempiere (xe)
Statistics computed: 1
PL/SQLプロシージャが正常に完了しました。
PL/SQLプロシージャが正常に完了しました。
レコードが選択されませんでした。
レコードが選択されませんでした。
レコードが選択されませんでした。
レコードが選択されませんでした。
コミットが完了しました。
Oracle Database 10g Express Edition Release 10.2.0.1.0 - Productionとの接続が切
断されました。
続行するには何かキーを押してください . . .
```

↑この画面と同じメッセージが表示されたらインポートは正常に実行されています。

1-8 Adempiere サーバーの起動

C:\Adempiere\utils\RUN_Server2.bat

をクリックするとJBoss サーバーが起動します。

1-9 Adempiere クライアントのインストール

C:\Adempiere\lib\AdempiereClient.zip が adempiere のクライアントプログラムです。

AdempiereClient.zip を解凍してください。このマニュアルではデスクトップに解凍します。

解凍して出来たフォルダに、RUN_Adempiere.bat というファイルがあるのでクリックして実行してください。

Adempiere クライアントが起動します。

最初に起動したときは GPL ライセンスに同意するかどうかのウィンドウが表示されるので、同意できる場合は、同意するを選んで先に進んでください。

これでインストール作業は終了です。

2-1 ログイン

Adempiere クライアントを起動するとログイン画面が表示されます。



まず、標準で作成されている ID とパスワードでログインしてください。

「ユーザー」に SuperUser

「パスワード」に System

と入力してください。

言語は「日本語(JP)」を選択して、右下の OK ボタン(右下のチェックマークのボタン)を押してください。

認証済みの画面に移動したら、インストールは適切に完了しています。

ログイン画面の下に「データベースが見つかりません」と表示された場合は、Oracle が起動していないことが考えられます。

Oracle が起動しているかどうか確認してください。

2-2 Web UI のログイン

Jboss サーバーが起動している状態で、インストール時に設定したアプリケーション・サーバ名をブラウザに入力すると、ウェブ画面が表示されます。

(例: <http://computer1/>)

表示された画面の “Adempiere ZK webUI (beta)” をクリックすると、Web 経由で Adempiere にアクセスできます。

(例: <http://computer1/webui/>)

